

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	沖縄総合事務局長
【提出日】	平成25年5月24日
【事業年度】	第43期（自平成24年3月1日至平成25年2月28日）
【会社名】	株式会社サンエー
【英訳名】	SAN-A CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上地 哲誠
【本店の所在の場所】	沖縄県宜野湾市大山七丁目2番10号
【電話番号】	098(898)2230(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 今中 泰洋
【最寄りの連絡場所】	沖縄県宜野湾市大山七丁目2番10号
【電話番号】	098(898)2230(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 今中 泰洋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第39期 平成21年2月	第40期 平成22年2月	第41期 平成23年2月	第42期 平成24年2月	第43期 平成25年2月
売上高 (百万円)	-	132,212	136,491	138,532	140,925
経常利益 (百万円)	-	8,962	9,910	10,697	10,155
当期純利益 (百万円)	-	4,993	5,642	6,280	5,597
包括利益 (百万円)	-	-	-	6,776	6,002
純資産額 (百万円)	-	57,997	63,285	69,300	74,194
総資産額 (百万円)	-	88,018	86,918	92,781	96,583
1株当たり純資産額 (円)	-	3,539.78	3,851.90	4,201.76	4,505.87
1株当たり当期純利益金額 (円)	-	312.45	353.08	392.99	350.21
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	-	64.3	70.8	72.4	74.6
自己資本利益率 (%)	-	9.2	9.6	9.8	8.0
株価収益率 (倍)	-	10.4	9.0	7.9	11.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-	9,828	3,180	9,611	8,572
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-	4,657	9,262	752	5,825
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	-	1,250	1,324	1,511	1,885
現金及び現金同等物の期 末残高 (百万円)	-	19,743	12,336	21,188	22,049
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	- (-)	1,106 (5,058)	1,114 (5,165)	1,124 (5,270)	1,132 (5,330)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第40期連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第39期 平成21年2月	第40期 平成22年2月	第41期 平成23年2月	第42期 平成24年2月	第43期 平成25年2月
売上高 (百万円)	127,279	132,154	136,148	138,171	140,581
経常利益 (百万円)	8,379	8,894	9,458	10,173	9,751
当期純利益 (百万円)	4,900	4,982	5,494	6,004	5,725
持分法を適用した場合の 投資利益 (百万円)	-	-	-	-	-
資本金 (百万円)	3,723	3,723	3,723	3,723	3,723
発行済株式総数 (千株)	15,990	15,990	15,990	15,990	15,990
純資産額 (百万円)	52,152	56,561	61,401	66,716	71,705
総資産額 (百万円)	80,483	86,116	84,503	89,758	93,542
1株当たり純資産額 (円)	3,263.14	3,539.09	3,841.95	4,174.50	4,486.67
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	35.00 (-)	37.00 (-)	42.00 (-)	47.00 (-)	50.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	306.61	311.76	343.82	375.68	358.26
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.8	65.7	72.7	74.3	76.7
自己資本利益率 (%)	9.8	9.2	9.3	9.4	8.3
株価収益率 (倍)	9.7	10.5	9.3	8.3	10.8
配当性向 (%)	11.4	11.9	12.2	12.5	14.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	11,944	-	-	-	-
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,610	-	-	-	-
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	828	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期 末残高 (百万円)	15,823	-	-	-	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	1,035 (4,818)	1,080 (5,045)	1,091 (5,145)	1,085 (5,246)	1,093 (5,307)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関係会社として非連結持分法非適用子会社1社が存在しますが、損益等からみて重要性に乏しいため記載を省略しております。

3. 第41期の1株当たり配当額には、設立40周年記念配当2円を含んでおります。

4. 第40期より連結財務諸表を作成しているため、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

5. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

当社の前身は、創業者故折田喜作が昭和25年1月、沖縄県宮古島市（旧平良市）に創業した個人経営の雑貨店「オリタ商店」であります。昭和45年5月、事業基盤の確立及びチェーンストアの経営を目的として沖縄県那覇市安里に株式会社サンエーを設立するとともに、同年7月に「那覇店」を出店し、現在に至っております。

- 昭和45年5月 沖縄県那覇市安里に株式会社サンエーを設立（資本金50千ドル）
- 昭和45年7月 総合衣料セルフサービス店「那覇店」を開店
- 昭和47年5月 本土復帰に伴う通貨の切換えにより、資本金は24,400千円となる
- 昭和52年6月 沖縄県沖縄市に総合大型店舗「ファミリープラザコザ店（現「中の町タウン」）」を開店
- 昭和57年9月 サンエー運輸株式会社（現在非連結子会社）を設立（資本金10,000千円）
- 昭和59年11月 沖縄県宜野湾市大山に大山流通センターを新設
- 昭和60年5月 沖縄県宜野湾市大山に本社を移転
- 昭和60年6月 大山流通センター内に生鮮加工センター（現 食品加工センター）を開設
- 昭和60年11月 沖縄県浦添市に郊外型ショッピングセンター「マチナトショッピングセンター」を開店
- 平成元年9月 ニチリウ（日本流通産業株式会社）グループに加盟
- 平成4年9月 食品加工センター内に食品工場稼働
- 平成6年5月 沖縄県那覇市に外食ロードサイドレストラン1号店「和風亭小禄店」を開店
- 平成7年4月 株式会社ダイイチ（現 株式会社エディオン）とフランチャイズ契約を締結し、家電販売を開始
- 平成10年10月 「サンエーカード」（ポイントカード）を導入
- 平成12年9月 日本証券業協会に店頭登録
- 平成14年1月 株式会社ジョイフルとフランチャイズ契約を締結し、沖縄県那覇市に洋食レストラン1号店「ジョイフルおもろまち店」を開店
- 平成14年10月 沖縄県那覇市に「那覇メインプレイス」（売場面積32,312㎡）を開店
- 平成15年10月 「サンエーVISAカード」（クレジットカード（株式会社オックス（現 株式会社OCS）提携））を導入
- 平成17年2月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 平成17年7月 沖縄県宜野湾市にNSC（近隣型ショッピングセンター）1号店「大山シティ」を開店
- 平成18年2月 東京証券取引所市場第一部に上場
- 平成18年7月 ISO22000認証取得（食品加工センター）
- 平成18年10月 株式会社マツモトキヨシとフランチャイズ契約を締結し、ドラッグストア1号店を開店
- 平成19年10月 創業店舗「那覇店」（平成19年2月閉店）をドラッグストアに業態転換
- 平成20年2月 「サンエーE d yカード」（プリペイド型電子マネーE d y（ビットワレット株式会社（現 楽天E d y株式会社）運営））を導入
- 平成21年12月 株式会社ローソンとの合併会社「株式会社ローソン沖縄」（当社持分比率51%）が、沖縄県内におけるコンビニエンスストアのフランチャイズシステム及び直営店の運営を開始
- 平成24年3月 株式会社東急ハンズとフランチャイズ契約を締結し、同年7月に1号店を開店

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、株式会社サンエー（当社）及び子会社2社により構成されております。当社の事業内容としましては、小売部門（衣料品、住居関連用品、食料品の販売及び外食）、その他部門（ホテル）となっております。

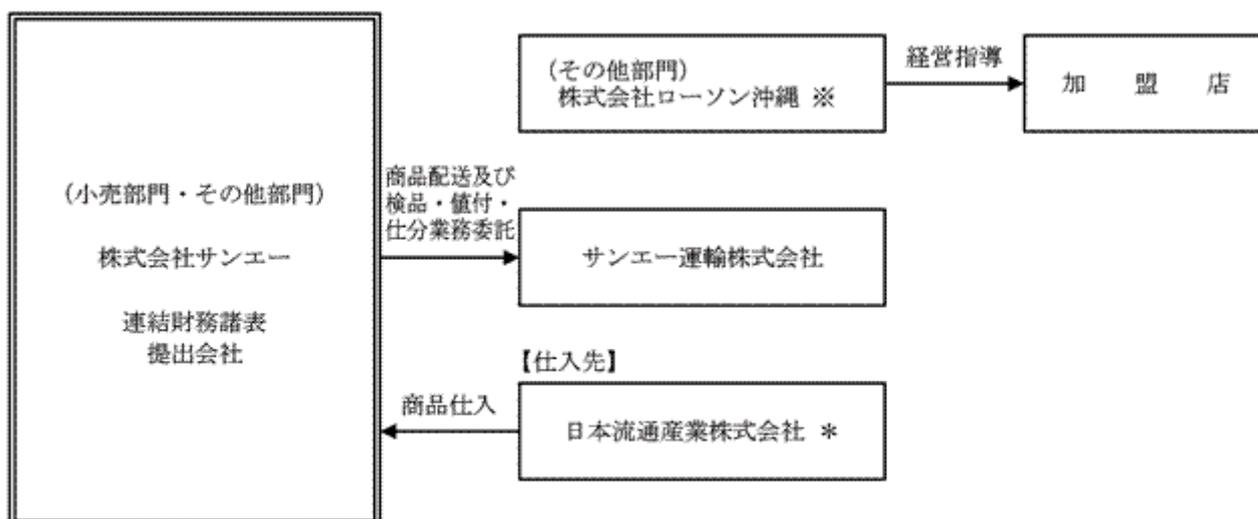
関係会社の株式会社ローソン沖縄は、沖縄県内におけるコンビニエンスストア「ローソン」のフランチャイズシステム及び直営店の運営を行っております。また、サンエー運輸株式会社は、一般貨物自動車運送業及び損害保険代理業を営んでおります。

関連当事者の日本流通産業株式会社は、当社に開発商品、輸入商品等を供給しております。

なお、セグメント情報を記載していないため、事業の部門別に記載しております。

部門の名称等	会社名
小売部門 衣料品、住居関連用品、食料品の販売及び外食 その他部門 ホテル	株式会社サンエー
その他部門 沖縄県内におけるコンビニエンスストア「ローソン」のフランチャイズシステム及び直営店の運営	株式会社ローソン沖縄
その他 商品の配送及び検品・値付・仕分業務 損害保険代理業	サンエー運輸株式会社

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



※は連結子会社

*は関連当事者

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) ㈱ローソン沖縄	沖縄県浦添市	10	沖縄県内におけるCVS「ローソン」のフランチャイズシステム及び直営店の運営	所有 51.0	役員の兼任あり。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
小売部門	954 (4,941)
その他部門	41 (32)
共通	137 (357)
合計	1,132 (5,330)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、準社員及び嘱託社員を含めております。
2. ()内は、外書きで、臨時従業員数(パートナー社員及びアルバイト)の年間平均雇用人員(1人8時間換算)を記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成25年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,093 (5,307)	35.2	12.2	4,292

セグメントの名称	従業員数(人)
小売部門	954 (4,941)
その他部門	2 (9)
共通	137 (357)
合計	1,093 (5,307)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から当社グループへの出向者を除く。)であり、準社員及び嘱託社員を含めております。
2. ()内は、外書きで、臨時従業員数(パートナー社員及びアルバイト)の年間平均雇用人員(1人8時間換算)を記載しております。
3. 平均年間給与は、入社1年以上の社員を対象に、賞与及び基準外賃金を含めて計算しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で低下した生産の持ち直しや昨年末の政権交代による過度な円高の是正を背景として、輸出企業を中心に収益改善の期待から株価が上昇し、国内経済は回復の兆しが見られました。しかし、欧州の債務危機問題の長期化などによる海外経済停滞から先行き不透明感が完全に払拭できない状況で推移いたしました。

小売業界におきましては、業態を超えた競争の激化や低価格販売による競争が続くなど、経営環境は引き続き厳しい状況となりました。

このような環境の中、当社は経営方針を「情報のキャッチボール」とし、お客様のニーズや価値観の変化、社会の変化に気づき、社員一人ひとりが主体性をもって相互に発言することが人材育成や業務改善に繋がると考え、企業理念の浸透、七大基本の徹底、既存店の活性化、効率化を図るとともに商品力の強化、効率的な情報システム開発、人材力の強化を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。

店舗展開につきましては、7月に「宜野湾コンベンションシティ」（沖縄県宜野湾市）を新規出店いたしました。また、12月に「小禄ファッション館」（沖縄県那覇市）を閉店いたしました。

その結果、当連結会計年度における営業収益（売上高及び営業収入）は1,489億30百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は98億90百万円（前年同期比5.8%減）、経常利益は101億55百万円（前年同期比5.1%減）となりました。当期純利益は訴訟和解金1億93百万円を特別損失に計上した結果55億97百万円（前年同期比10.9%減）となりました。なお、前連結会計年度は退職給付制度改定益4億32百万円を特別利益に、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額1億87百万円を特別損失に計上しております。

部門別の業績は、次のとおりであります。

「小売部門」

小売部門におきましては、ワンランクアップ商材の拡充や、旬・行事・季節商材の早期展開等に取り組まれましたが、天候要因（梅雨・台風・暖冬）の影響や、地上デジタル放送完全移行による需要等の反動で家電商品が大幅に落ち込んだことにより、既存店売上高前年同期比は2.1%減となりました。新店舗の寄与により売上高は1,404億93百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

「その他部門」

その他部門のうちCVS（コンビニエンスストア）は、売上高（直営店舗）は3億44百万円（前年同期比4.8%減）、営業収入は36億10百万円（前年同期比9.5%増）となりました。なお、1月に直営店2店舗のうち1店舗を閉店いたしました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より8億61百万円増加し220億49百万円（前年同期比4.1%増）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得た資金は、85億72百万円（前年同期比10.8%減）となりました。

主な要因は、税金等調整前当期純利益98億71百万円の計上、減価償却費31億29百万円の計上及び法人税等の支払額44億10百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用した資金は、58億25百万円（前年同期は7億52百万円の獲得）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出57億65百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動に使用した資金は、18億85百万円（前年同期比24.8%増）となりました。

主な要因は、長期借入金の返済による支出5億85百万円、配当金の支払額7億49百万円及び少数株主への配当金の支払額3億57百万円であります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 販売実績

セグメント情報の記載を省略しているため、当連結会計年度における販売実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

部門の名称		金額(百万円)	前年同期比(%)
小売部門	衣料品	14,153	102.4
	住居関連用品	39,994	98.5
	食料品	79,896	103.0
	外食	6,449	106.3
	小計	140,493	101.7
その他部門	ホテル	87	111.4
	コンビニエンスストア	344	95.2
	小計	431	98.1
売上高合計		140,925	101.7

(注) 1. 当連結会計年度より部門別の区分を一部変更しております。このため、前年同期比については、前年同期実績値を変更後の区分に組替えた金額と比較しております。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(4) 仕入実績

セグメント情報の記載を省略しているため、当連結会計年度における仕入実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

部門の名称		金額(百万円)	前年同期比(%)
小売部門	衣料品	9,023	102.2
	住居関連用品	29,311	98.1
	食料品	57,885	103.6
	外食	2,109	104.9
	小計	98,329	101.8
その他部門	ホテル	1	126.1
	コンビニエンスストア	258	93.9
	小計	259	94.1
仕入高合計		98,589	101.7

(注) 1. 当連結会計年度より部門別の区分を一部変更しております。このため、前年同期比については、前年同期実績値を変更後の区分に組替えた金額と比較しております。

2. 仕入高には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

翌連結会計年度のわが国経済の見通しといたしましては、政府の経済対策による緩やかな景気回復が見られるものの、依然として欧州の金融危機による影響等、先行き不透明な状況で推移することが予想されます。

このような環境が予想される中、当社は経営方針を「あるべき姿」とし、全ての基本はお客様の信頼と支持であることを再認識し、店舗、商品、接客、仕組みについて、常に「あるべき姿」を考え、それに近づく努力をいたします。また、引き続き企業理念の浸透、七大基本の徹底、既存店の活性化、効率化を図るとともに商品力の強化、効率的な情報システム開発、人材力の強化を行い、お客様満足度の向上に努めてまいります。また、株式会社ローソン沖縄と連携し、地域食材を使った商品の共同開発、新商品の提案、売れ筋商品の情報交換を行い、商品力の強化を図ってまいります。

出店計画につきましては、4月に「八重瀬シティ」（沖縄県島尻郡八重瀬町）を出店いたしました。

なお、3月に「ホテルサンワ」（沖縄県那覇市）を閉店いたしました。

4【事業等のリスク】

当社グループの事業等のリスクについて、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。ただし、以下は当社グループのすべてのリスクを網羅したものではありません。記載以外のリスクが発生する可能性があります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 出店政策について

当社は、衣料品・住居関連用品・食料品を販売するスーパーマーケットチェーンとして、沖縄県内に店舗網を展開しており、平成25年2月末日現在、衣料品・住居関連用品・食料品を取り扱う「総合店舗」を21店舗、衣料品・住居関連用品を取り扱う「衣料・住居店舗」を1店舗、食料品・住居関連用品を取り扱う「食品店舗」を40店舗、「ドラッグストア」を1店舗、「外食店舗」を14店舗有しております。その他、ビジネスホテル1軒、ペンション1軒を有しております。

今後も、沖縄県内のドミナント出店を行ってまいります。それに伴い、出店計画の進捗状況や他社との競争激化、同県内の経済情勢及び台風等の天候不順により、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 法的規制について

当社の出店に際しては、売場面積1,000㎡超の場合、「大規模小売店舗立地法」により、交通渋滞、騒音、廃棄物について、都道府県または政令都市の審査及び規制を受けております。また、郊外への出店も規制され、今後の出店計画においてもこれらの法的規制により影響を受ける可能性があります。

また、独占禁止法、環境・リサイクル、食品の安全管理等の法令遵守に努めておりますが、万一、これらに違反する事由が生じ、事業活動が制限された場合、当社の社会的信用の低下を招き、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 流通センターの集中について

当社は、沖縄県宜野湾市の本社に隣接して大山流通センターを有しております。当該センターは下記の内容で構成され、各店舗への商品供給は子会社のサンエー運輸株式会社が行っております。

ディストリビューションセンター（DC）

各取引先から商品の一括納品を受け、衣料品及び住居関連用品の検品及び値付、仕分け作業、食品ドライ商品等（加工食品、菓子）の検品及び仕分け作業を集中して行っております。

食品加工センター（生鮮加工、食品工場）

生鮮加工では、精肉、鮮魚の一括仕入、加工、パッケージ等の業務を集中して行っており、全ての店舗へ商品供給が可能となっております。

食品工場では、自動炊飯ラインにて炊き上げた米飯でおにぎりや巻きずしを製造しております。また、和惣菜（煮物等）の製造も行っております。

これらの機能が、大山流通センターに集中しているため、当該センターが天災、その他の影響により操業が不可能となった場合、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 食品の安全について

当社では「品質管理室」を設置し、食品加工センター及び店舗の衛生管理や商品の品質管理を徹底し、お客様が安心・安全、信頼して買い物ができるよう食品の安全確保に努めております。しかし、予期せぬ事由により食中毒や瑕疵のある商品の販売等によって、店舗の営業に影響が及んだ場合や、鳥インフルエンザ等の発生により、一般消費者に食品に対する不安感が広まった場合、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 個人情報の管理について

当社は、「サンエーカード」等による顧客の個人情報を大量に有しております。これらの個人情報の管理については、「個人情報の保護に関する法律」の施行に伴い、個人情報基本方針、個人情報管理規程、同マニュアル等を策定し、適切に運用・管理するとともに社員への教育の徹底を行っております。しかしながら、予期せぬ事件、事故等により個人情報の流出等が発生した場合、当社の社会的信用の低下を招き、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(6) フランチャイズ事業に関するリスク(CVS)

当社の連結子会社のCVS部門にて、フランチャイズシステムを採用し、FC加盟店オーナーとの間で締結するフランチャイズ契約に基づいて、株式会社ローソンが保有する店舗ブランド名にてチェーン展開を行っております。従って、契約の相手先であるFC加盟店における不祥事などによりチェーン全体のブランドイメージが影響を受けた場合、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりましては、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の概要につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載しております。

売上高は1,409億25百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

主な要因は、天候要因（梅雨・台風・暖冬）の影響や、地上デジタル放送完全移行による需要等の反動で家電商品が大幅に落ち込み既存店売上高前年同期比2.1%減となりましたが、新規出店効果によるものであります。

営業収入は80億5百万円（前年同期比7.2%増）となりました。

主な要因は、「不動産賃貸収入」及び「加盟店からの収入」が増加したことによるものであります。

販売費及び一般管理費は408億96百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

主な要因は、新規出店に伴う人件費及び減価償却費等が増加したことによるものであります。

以上の結果、営業利益は98億90百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

経常利益は101億55百万円（前年同期比5.1%減）となりました。

当期純利益は、訴訟和解金1億93百万円を特別損失に計上した結果55億97百万円（前年同期比10.9%減）となりました。なお、前連結会計年度は退職給付制度改定益4億32百万円を特別利益に、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額1億87百万円を特別損失に計上しております。

(3) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末と比較して38億1百万円増加し、965億83百万円となりました。

主な要因は、現金及び預金が8億61百万円、商品及び製品が4億43百万円、有形固定資産が25億97百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比較して10億91百万円減少し、223億88百万円となりました。

主な要因は、未払法人税等が4億34百万円、長期借入金が5億34百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して48億93百万円増加し、741億94百万円となりました。

主な要因は、利益剰余金が48億45百万円増加したことによるものであります。

(4) キャッシュ・フローの分析

「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載しております。

(6) 経営戦略の現状と見通し

「第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載しております。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

「第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において、総額60億17百万円の設備投資を行いました。

そのうち主な設備投資は、「宜野湾コンベンションシティ」（沖縄県宜野湾市）の新規出店によるものであります。

なお、当連結会計年度において、重要な影響を及ぼす設備の売却、除却等はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成25年2月28日現在)

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数(人)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
那覇メイン プレイス他	小売	店舗	19,724	379	20,231 (257)	332	6,234	46,902	954
本社 他	-	本社 流通センター	779	130	4,152 (39)	59	105	5,227	137

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、借地権、出店に伴う差入保証金及び建設協力金(一年内回収予定のものを含む)の合計額であります。

なお、金額には、消費税等は含めておりません。

2. 建物のうち「本社・大山流通センター」の一部(324.55㎡)を子会社であるサンエー運輸株式会社に賃貸しております。

3. 建物の賃借面積は、合計で245千㎡であります。

4. 従業員数には、臨時従業員数(パートナー社員及びアルバイト)は含めておりません。

5. リース契約による主な賃借設備は、次のとおりであります。

名称	賃借及びリース料(百万円)	期末残高相当額(注)(百万円)	主な賃借及びリース期間(年)
車両運搬具(契約件数6件)	1	0	5
工具、器具及び備品(契約件数46件)	55	23	5
不動産(建物及び土地) (契約件数20件)	1,863	33,945	20~50
合計	1,920	33,969	-

(注) 不動産(建物及び土地)については、未経過リース料を記載しております。

(2) 国内子会社

(平成25年2月28日現在)

会社名	事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				年間賃借料又はリース料(百万円)	従業員数(人)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	その他	合計		
(株)ローソン沖縄	本社・直営店 1店 加盟店 153店 (沖縄県)	その他	事務所 店舗	994	-	2,046	3,040	163	39

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、出店に伴う差入保証金及び建設協力金(一年内回収予定のものを含む)の合計額であります。

なお、金額には消費税等は含めておりません。

2. 従業員数には、臨時従業員数(パートナー社員及びアルバイト)は含めておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメン トの名称	設備の 内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年 月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
(株)サンエー 八重瀬シティ (注1)	沖縄県 島尻郡 八重瀬町	小売	店舗 新設	2,200	1,144	自己資金	平成24年 5月	平成25年 4月	店舗面積 7,199㎡
(株)ローソン沖縄	沖縄県 那覇市他	その他	店舗 新設	605	-	自己資金	平成25年3月 ~ 平成26年2月	平成25年3月 ~ 平成26年2月	-
	沖縄県 那覇市他	その他	店舗 改装	180	-	自己資金	平成25年3月 ~ 平成26年2月	平成25年3月 ~ 平成26年2月	-

(注) 1. 投資予定金額の既支払額は、建設仮勘定1,144百万円であります。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。但し、建設仮勘定は消費税等を含んでおります。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成25年5月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	15,990,827	15,990,827	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	15,990,827	15,990,827	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成18年2月13日 (注1)	700	15,901	1,641	3,513	1,640	3,476
平成18年2月23日 (注2)	89	15,990	209	3,723	209	3,686

(注)1. 有償一般募集

発行価格	4,688.85円
資本組入額	2,345円
払込金総額	3,282百万円

2. 第三者割当増資(割当先:野村證券株)

発行価格	4,688.85円
資本組入額	2,345円
払込金総額	419百万円

(6)【所有者別状況】

平成25年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	32	25	139	125	5	4,661	4,987	-
所有株式数(単元)	-	19,405	471	7,582	24,700	10	107,583	159,751	15,727
所有株式数の割合(%)	-	12.13	0.30	4.76	15.45	0.01	67.35	100.00	-

(注) 自己株式8,935株は、「個人その他」に89単元及び「単元未満株式の状況」に35株を含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成25年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
折田 譲治	沖縄県宜野湾市	2,016	12.61
折田 富子	沖縄県宜野湾市	1,695	10.60
金城 和子	沖縄県宜野湾市	1,652	10.33
折田 節子	沖縄県浦添市	900	5.63
金城 弘道	沖縄県宜野湾市	707	4.42
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパ ニー(常任代理人 香港上海 銀行東京支店)	米国・ボストン (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	582	3.64
日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	503	3.15
ビービーエイチ フォー フィ デリティー ロー プライズド ストック ファンド(プリン シパル オール セクター サ ブポートフォリオ)(常任代 理人 株式会社三菱東京UF J銀行)	米国・ボストン (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	375	2.35
日本マスタートラスト信託銀 行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	271	1.70
折田 公仁	東京都品川区	240	1.50
計	-	8,944	55.94

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 8,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,966,200	159,662	-
単元未満株式	普通株式 15,727	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	15,990,827	-	-
総株主の議決権	-	159,662	-

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社サンエー	沖縄県宜野湾市大山7丁目2-10	8,900	-	8,900	0.06
計	-	8,900	-	8,900	0.06

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価格の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	66	201
当期間における取得自己株式数	60	250

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成25年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	8,935	-	8,995	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要課題であると認識し、中長期的に収益性及び財務体質の強化を図るとともに、経済情勢、業界の動向、業績の進展状況等に応じて、株主の皆様へ安定的な利益還元を継続して行うことを基本方針としております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

また、定款において、毎年8月31日を基準として、取締役会の決議をもって、株主又は登録株式質権者に対し、中間配当金として剰余金の配当を行うことができる旨を定めております。

配当の決定機関は、中間配当につきましては取締役会、期末配当につきましては株主総会であります。

この方針に基づき、当事業年度の配当金につきましては、前事業年度比3円00銭の増配をさせて頂き、1株当たり普通配当50円00銭（年間）を実施いたしました。なお、翌事業年度の配当金につきましては、1株当たり普通配当50円00銭（年間）を予定しております。

内部留保資金につきましては、業界内の競争に対処すべく新規出店及び既存店の活性化の投資資金、IT関連投資資金等に充当し、更なる業績の向上と企業体質の強化を図るために有効投資をしてみたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年5月23日 定時株主総会	799	50

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	平成21年2月	平成22年2月	平成23年2月	平成24年2月	平成25年2月
最高(円)	4,080	4,020	3,945	3,300	3,900
最低(円)	2,285	2,520	3,000	2,510	2,850

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年9月	平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月
最高(円)	3,125	3,130	3,105	3,315	3,760	3,900
最低(円)	2,950	2,970	2,963	2,960	3,240	3,615

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		折田 譲治	昭和23年10月14日生	昭和47年4月 池田建設(株)入社 昭和54年4月 国建設計工務(株)入社 昭和58年6月 当社入社 昭和59年1月 当社取締役社長室長就任 昭和60年2月 サンエー運輸(株)代表取締役社長就任 昭和62年2月 当社専務取締役就任 平成6年8月 当社取締役副社長就任 平成7年2月 当社代表取締役会長就任 (現任) 平成11年12月 日本流通産業(株)代表取締役副社長就任(現任)	(注)3	2,016
取締役社長 (代表取締役)		上地 哲誠	昭和24年12月30日生	昭和44年4月 (株)国際旅行社入社 昭和45年12月 当社入社 昭和52年6月 当社衣料部担当部長 昭和53年4月 当社取締役衣料部長就任 昭和59年5月 当社取締役食品部長 昭和62年2月 当社常務取締役就任 平成4年5月 当社専務取締役就任 平成6年5月 当社取締役副社長就任 平成7年2月 当社代表取締役社長就任 (現任)	(注)3	111
専務取締役	営業担当	中西 淳	昭和35年12月14日生	昭和62年4月 富士精版印刷(株)入社 平成元年3月 当社入社 平成4年10月 当社外食部長 平成5年5月 当社常務取締役就任 平成7年2月 当社専務取締役就任 平成16年3月 当社専務取締役 (営業担当)(現任)	(注)3	37
常務取締役	管理、コンプライアンス、 リスク管理担当	今中 泰洋	昭和39年5月4日生	平成元年4月 当社入社 平成5年6月 当社人事部長 平成7年2月 当社取締役人事部長就任 平成9年9月 当社取締役人事・総務部長 平成11年4月 当社取締役人事部長 平成16年3月 当社取締役 平成21年3月 当社取締役総務部長 平成21年5月 当社取締役総務部長 (リスク管理担当) 平成25年5月 当社常務取締役就任 (管理、コンプライアンス、 リスク管理担当) (現任)	(注)3	38
常務取締役	電器・販促企画担当	新城 健太郎	昭和43年11月15日生	平成4年4月 当社入社 平成7年12月 当社電器部長 平成19年5月 当社取締役電器部長就任 平成24年9月 当社取締役電器部長兼販促企画部長 平成25年5月 当社常務取締役就任 (電器・販促企画担当) (現任)	(注)3	5
取締役	食品部長	田崎 正仁	昭和38年3月7日生	平成元年4月 当社入社 平成19年8月 当社食品部長 平成23年5月 当社取締役食品部長就任 (現任)	(注)3	9

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		古謝 将之	昭和33年11月18日生	昭和57年3月 当社入社 平成4年4月 当社財務部長 平成5年5月 当社常務取締役就任 平成6年8月 当社専務取締役就任 平成21年11月 当社取締役就任(現任) 平成21年12月 ㈱ローソン沖縄代表取締役社長就任(現任)	(注)3	47
常勤監査役		鍵谷 裕二	昭和25年4月8日生	昭和50年4月 株式会社五番館入社 昭和60年4月 当社入社 平成6年5月 当社企画部長 平成11年4月 当社総務部長 平成16年5月 当社監査役就任(現任)	(注)2	26
監査役		國仲 昌夫	昭和17年12月23日生	平成4年7月 沖縄振興開発金融公庫宮古支店長 平成7年6月 同公庫庶務部長 平成9年6月 同公庫融資第一部長 平成11年6月 同公庫理事 平成17年5月 当社監査役就任(現任)	(注)4	-
監査役		宮里 啓和	昭和21年9月27日生	昭和52年4月 東京弁護士会に弁護士登録 昭和53年7月 沖縄弁護士会に弁護士登録 換え 平成21年5月 当社監査役就任(現任)	(注)4	-
計						2,292

- (注) 1. 監査役國仲昌夫、宮里啓和の両名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 平成24年5月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
3. 平成25年5月23日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
4. 平成25年5月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の透明性・迅速且つ適切な経営判断による業務執行に加え、法令遵守や社会規範等を遵守し、公正な企業活動を行うことにより健全なコーポレート・ガバナンス体制の構築に努めてまいります。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要

a．取締役会

当社の取締役会につきましては、本有価証券報告書提出日現在7名で構成されており、社外取締役はおりません。その取締役及び監査役(3名)で取締役会を構成しており、毎月1回、また必要に応じて臨時に開催して重要な経営意思決定を行うほか、業績の進捗等についても議論し、適切な経営管理が行われる体制となっております。

b．監査役会

当社は、監査役会制度を採用しており、監査役3名(内2名が社外監査役)で構成されております。監査役会は、毎月1回、また必要に応じて臨時に開催しております。各監査役は取締役会及び経営会議等の重要な会議に出席し、経営意思決定の場での取締役の監視を行っております。

c．内部監査室

当社は、社長直轄の部署として内部監査室を設けております。同室では室長と5名の専任者が、年間計画に基づき、各部署、各店舗、子会社への業務監査、会計監査及び財務報告に係る内部統制の運用評価を行っております。その結果等に関しては、社長へ随時報告を行い、関係部署への報告として経営会議へ月間報告を行っております。また、業務の改善に向けた具体的な助言や勧告を行う等、内部監査・監査役監査・会計監査それぞれ実効あるものとなるよう相互間の連携強化を図っております。

d．会計監査人

会計監査人として有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、独立した公正な立場から会計に関する監査を受けております。また、同監査法人は平成22年2月期から、財務報告に係る内部統制の監査も実施しております。

e．会議体等

・経営会議

当社は、取締役会(原則毎月1回開催)とは別に経営会議(原則毎週1回開催)を組織しております。そのメンバーは、取締役(7名)、常勤監査役(1名)に加え、各部の部長及び子会社の取締役社長となっております。取締役会決議以外の経営意思決定につき、社長判断の際の諮問を行っており、経営の透明性(情報、判断、決定、実行の共有)の確保と迅速化に寄与しております。

・コンプライアンス委員会及びリスク管理委員会

当社は、事業活動における法令・企業倫理・社内規程等の遵守を確保するため、コンプライアンス担当取締役を委員長としたコンプライアンス委員会を設置しております。また、事業活動における損失の危険(リスク)の管理に関して、リスク管理担当取締役を委員長としたリスク管理委員会を設置しております。各委員会の開催につきましては、原則として四半期毎に1回の定例会の他、必要に応じて随時開催しております。

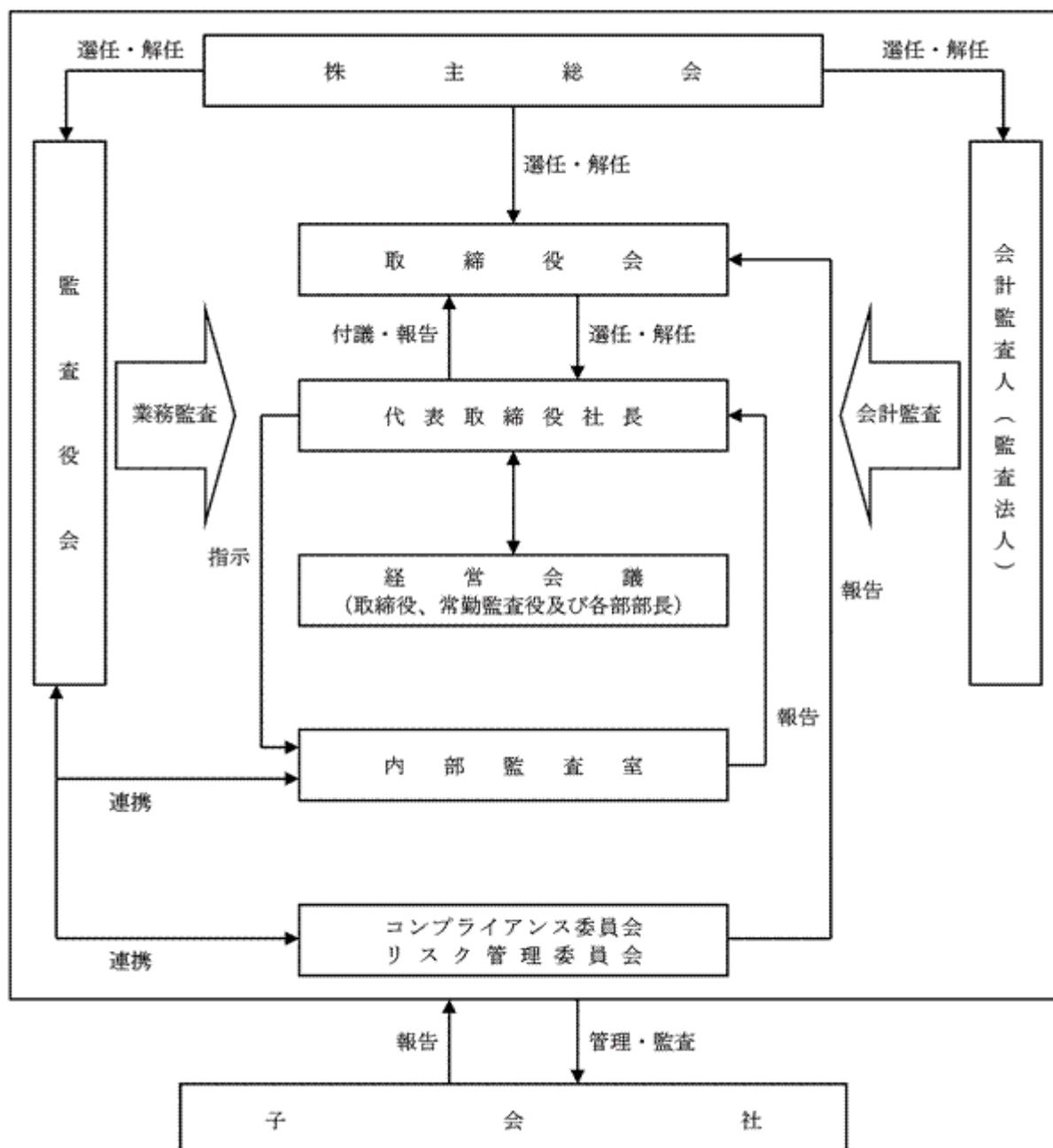
ロ．当該体制を採用する理由

当社は、監査役会制度を採用しており、監査役3名の内2名を社外監査役とすることによって執行機能に対する監査機能の客観性・中立性を確保すること及び執行機能から独立した内部監査室と監査役との連携を確保することにより監査機能の強化を図っております。さらに、「組織規程」、「業務分掌規程」、「職務権限規程」、「稟議規程」等の社内規程に定める客観的基準をもとに、重要な経営意思決定を行う取締役会と業務執行に係る個別の意思決定を行う会議体を明確に区分しております。

また、経営の透明性、迅速な意思決定や業務執行が重要と考え、社内事情や業務に精通した比較的小人数の取締役によって取締役会を構成し運営しております。

これらにより、経営判断及び業務執行の適正化・効率化に努めております。

当社の業務執行及び経営監視及び内部統制は以下の図表のとおりであります。



八．内部統制システムの整備状況

当社は、会社法施行に伴う「内部統制システムの構築のための基本方針」を取締役会において決議し、公表しておりますとおり、本有価証券報告書提出日現在で下記のとおり定めております。

- a. 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
 - ・事業活動における法令・企業倫理・社内規程等の遵守を確保するため、コンプライアンス担当取締役を置く。
 - ・「コンプライアンス委員会」を設置し、重要度の高い案件に関して協議を行い取締役会へ答申するものとする。
- b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項
 - ・取締役の職務の執行に係る情報については、取締役会議事録をはじめとする文書の取り扱いにつき、別途定める「文書取扱規程」に従い適切に保管及び管理を行う。
 - ・取締役及び監査役は、常時これらの文書を閲覧出来るものとする。

- c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ・事業活動における損失の危険（リスク）の管理に関して、リスク管理担当取締役を置く。
 - ・「リスク管理委員会」を設置し、全社的なリスク管理活動を統括し、規程の整備と運用を図るものとする。
 - ・各部門所管業務におけるリスク管理は、担当部門がそれぞれ行うものとする。
- d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・「取締役会」を毎月1回、また必要に応じて臨時に開催し、経営の意思決定と監視を行う。
 - ・「経営会議」を取締役、常勤監査役、各部の代表者及び子会社役員で組織し、原則として毎週1回開催をする。会社の経営管理及び業務運営に関する重要執行方針を協議し、社長判断の諮問を行う。
 - ・「組織規程」、「業務分掌規程」、「職務権限規程」、「稟議規程」等の社内規程により取締役及び使用人の責任と権限を明確化する。
 - ・コンピューターシステムを活用した業績管理を行い、「月次決算分析会議」にて業績の分析と改善策の策定を行う。
- e. 当会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・当社と子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するため、子会社管理担当取締役を置く。
 - ・「関係会社管理規程」に基づく子会社管理を当社経営企画部が担当する。また、子会社に対する監査を当社内部監査室が担当する。
 - ・子会社の内部統制及びシステム管理は、当社と同一のシステムで運用する。
- f. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
 - ・監査役は、内部監査室の要員に対し、補助者として監査業務の補助を行うよう命じることが出来るものとする。
 - ・監査役よりその命を受けた者は、取締役等の指揮命令を受けないものとする。
- g. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
 - ・監査役は、「取締役会」及び「月次決算分析会議」、「店長会議」等の重要な会議に出席し、常勤監査役は、それ以外にも「経営会議」をはじめ、その他の社内会議に出席する。また、監査役は出席した会議等にて、取締役及び使用人より、適宜報告を受けるものとする。
 - ・監査役は、稟議書、その他業務執行に係る重要文書を閲覧することが出来る。また、監査役は閲覧した稟議書、文書等に関して、取締役及び使用人より、必要に応じて報告を受けることが出来るものとする。
 - ・取締役及び使用人は、会社に重大な損失を与える事項が発生又は発生する恐れがあるとき、取締役及び使用人による違法又は不正行為を発見したとき、その他監査役が報告をすべきと定めた事項が発生したときは、速やかに監査役に報告をするものとする。
- h. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・監査役会は、代表取締役社長、監査法人、内部監査室とそれぞれ定期的に意見交換会を開催する。

二．リスク管理体制の整備状況

当社は、企業活動に関する内外の様々なリスクを統括的且つ管理するため、「リスク管理委員会規程」に従いリスク管理体制を構築しております。リスク管理委員会は、リスク管理担当取締役を委員長として、四半期毎の定例会のほか、事案毎に適時に開催し、企業活動における危機の未然防止に努めるとともに、発生した事案に対しては迅速な対応を行っております。また、一定の事案については「経営危機管理規程」に従って、迅速な対応、適時開示等を行っております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は、社長直轄の部署として内部監査室を設置しており、当社グループの各部署の業務運営状況を定期的に監査し、業務執行の監視と業務運営効率化に向けた検証を行っております。

監査役監査は、取締役会及び重要な会議に出席する他、取締役及び重要な使用人からの報告、説明などの聴取を行い、内部監査室並びに会計監査人と必要に応じ随時情報交換を行い、相互の連携を高め職務執行を十分に監視できる体制を整えております。

会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しております。業務を執行した公認会計士の氏名等は次のとおりであります。

業務を担当した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員	篠原 孝広	有限責任監査法人トーマツ
業務執行社員	細野 和寿	

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名
その他 3名

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。各監査役と当社との間に、人的関係、資金的関係又は主要な取引先に該当する取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役國仲昌夫氏は、金融機関出身であり、経営に関する豊かな見識を有していることから、客観的且つ中立的な立場から監督及び助言を行い、業務執行の適正性を確保する役割を果たしております。また、一般株主との利益相反のおそれがないことから、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として、同取引所へ届け出ております。なお、当事業年度中に開催した取締役会14回中12回出席、監査役会14回中14回出席しております。

社外監査役宮里啓和氏は、弁護士として法務に関する豊富な知識と幅広い見識を有していることから、取締役の業務執行を的確且つ適正に監査する役割を果たしております。なお、当事業年度中に開催した取締役会14回中13回出席、監査役会14回中14回出席しております。

当社は、社外取締役を選任しておりません。当社は経営意思決定機関である取締役会に対し、監査役3名中2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、選任にあたっては東京証券取引所の独立役員の基準等を参考にしております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員の員数(名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	165	165	-	-	7
監査役	14	14	-	-	1
社外監査役	8	8	-	-	2
合計	188	188	-	-	10

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の取締役の報酬等については、株主総会の決議により承認された報酬総額の範囲内で、経営成績、財務状況及び経済情勢を考慮の上、取締役会にて決定しております。

監査役の報酬等については、株主総会の決議により承認された報酬総額の範囲内で、監査役の協議により決定しております。

ハ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

10銘柄 545百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社沖縄銀行	51,814	174	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
沖縄電力株式会社	30,618	103	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
株式会社プロルート丸光	525,000	65	円滑な取引関係の維持
株式会社琉球銀行	40,207	41	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
沖縄セルラー電話株式会社	20	3	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集

当事業年度

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社沖縄銀行	51,814	195	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
沖縄電力株式会社	30,618	85	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
株式会社プロルート丸光	525,000	76	円滑な取引関係の維持
株式会社琉球銀行	40,207	49	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
沖縄セルラー電話株式会社	2,000	4	円滑な取引関係の維持及び地元上場企業間の情報収集
日本アジアグループ株式会社	141	0	円滑な取引関係の維持

取締役の定数

当社の取締役は13名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積票によらない旨も定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとしている事項

イ．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

ロ．中間配当

当社は、会社法第454条5項の規定により、取締役会の決議によって毎年8月31日を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。これは、株主の皆様へ機動的に利益還元を可能にするためであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会の円滑な運営を目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	28	-	27	-
連結子会社	-	-	-	-
計	28	-	27	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、当社の規模及び監査日数等を勘案し、監査公認会計士等と協議及び監査役会の同意を得た上で決定することとしております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（自平成24年3月1日至平成25年2月28日）の連結財務諸表及び事業年度（自平成24年3月1日至平成25年2月28日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,188	22,049
売掛金	1,336	1,269
商品及び製品	8,798	9,242
原材料及び貯蔵品	184	195
前払費用	335	351
繰延税金資産	1,126	1,109
その他	589	674
流動資産合計	33,559	34,893
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2, 3 17,491	2, 3 21,601
機械装置及び運搬具(純額)	2 242	2 511
工具、器具及び備品(純額)	2 1,580	2 1,736
土地	3 25,470	3 25,470
リース資産(純額)	2 379	2 392
建設仮勘定	3,144	1,194
有形固定資産合計	48,309	50,907
無形固定資産		
のれん	1,270	1,106
借地権	233	222
ソフトウェア	44	36
その他	47	47
無形固定資産合計	1,595	1,411
投資その他の資産		
投資有価証券	843	865
関係会社株式	1 21	1 21
長期前払費用	263	258
繰延税金資産	1,590	1,698
差入保証金	5,139	5,206
建設協力金	1,422	1,287
その他	35	33
投資その他の資産合計	9,316	9,370
固定資産合計	59,221	61,690
資産合計	92,781	96,583

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,684	6,729
1年内返済予定の長期借入金	3 585	3 534
リース債務	135	170
未払金	3,188	2,793
未払費用	893	938
未払法人税等	2,311	1,876
預り金	993	1,073
賞与引当金	897	913
商品券等回収損失引当金	24	24
その他	1,374	1,360
流動負債合計	17,089	16,414
固定負債		
長期借入金	3 1,231	3 696
リース債務	278	253
退職給付引当金	1,570	1,629
長期預り保証金	2,464	2,559
資産除去債務	337	343
その他	507	491
固定負債合計	6,391	5,974
負債合計	23,480	22,388
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,723	3,723
資本剰余金	3,686	3,686
利益剰余金	59,679	64,525
自己株式	25	25
株主資本合計	67,063	71,909
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	88	102
その他の包括利益累計額合計	88	102
少数株主持分	2,147	2,181
純資産合計	69,300	74,194
負債純資産合計	92,781	96,583

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
売上高	138,532	140,925
売上原価	96,466	98,143
売上総利益	42,066	42,781
営業収入		
不動産賃貸収入	3,095	3,327
加盟店からの収入	3,286	3,595
その他	1,087	1,082
営業収入合計	7,468	8,005
営業総利益	49,534	50,787
販売費及び一般管理費		
役員報酬	220	231
給料及び手当	3,369	3,489
賞与引当金繰入額	897	913
退職給付費用	237	224
役員退職慰労引当金繰入額	10	-
雑給	9,454	10,089
地代家賃	4,081	4,187
減価償却費	2,720	3,129
のれん償却額	163	163
水道光熱費	3,697	3,850
その他	14,185	14,617
販売費及び一般管理費合計	39,037	40,896
営業利益	10,497	9,890
営業外収益		
受取利息	58	46
受取配当金	12	12
受取家賃	37	28
債務勘定整理益	55	51
物品売却益	26	39
その他	95	142
営業外収益合計	284	320
営業外費用		
支払利息	41	28
商品券等回収損失引当金繰入額	13	13
貯蔵品廃棄損	12	-
その他	16	14
営業外費用合計	83	56
経常利益	10,697	10,155

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
特別利益		
退職給付制度改定益	432	-
特別利益合計	432	-
特別損失		
固定資産除却損	1 16	1 25
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	187	-
減損損失	2 13	2 64
訴訟和解金	-	193
特別損失合計	217	283
税金等調整前当期純利益	10,913	9,871
法人税、住民税及び事業税	4,213	3,981
法人税等調整額	95	98
法人税等合計	4,118	3,882
少数株主損益調整前当期純利益	6,794	5,988
少数株主利益	513	391
当期純利益	6,280	5,597

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
少数株主損益調整前当期純利益	6,794	5,988
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	14
その他の包括利益合計	17	14
包括利益	6,776	6,002
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,262	5,611
少数株主に係る包括利益	513	391

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,723	3,723
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,723	3,723
資本剰余金		
当期首残高	3,686	3,686
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,686	3,686
利益剰余金		
当期首残高	54,069	59,679
当期変動額		
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,280	5,597
当期変動額合計	5,609	4,845
当期末残高	59,679	64,525
自己株式		
当期首残高	25	25
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	25	25
株主資本合計		
当期首残高	61,454	67,063
当期変動額		
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,280	5,597
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	5,609	4,845
当期末残高	67,063	71,909

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	106	88
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	14
当期変動額合計	17	14
当期末残高	88	102
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	106	88
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	14
当期変動額合計	17	14
当期末残高	88	102
少数株主持分		
当期首残高	1,724	2,147
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	423	33
当期変動額合計	423	33
当期末残高	2,147	2,181
純資産合計		
当期首残高	63,285	69,300
当期変動額		
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,280	5,597
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	405	48
当期変動額合計	6,015	4,893
当期末残高	69,300	74,194

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	10,913	9,871
減価償却費	2,720	3,129
固定資産除却損	16	25
減損損失	13	64
のれん償却額	163	163
賞与引当金の増減額(は減少)	18	16
商品券等回収損失引当金の増減額(は減少)	0	0
退職給付引当金の増減額(は減少)	88	59
受取利息及び受取配当金	70	58
支払利息	41	28
退職給付制度改定益	432	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	187	-
訴訟和解金	-	193
協賛金収入	19	16
売上債権の増減額(は増加)	73	66
たな卸資産の増減額(は増加)	421	454
仕入債務の増減額(は減少)	127	44
未払金の増減額(は減少)	104	269
未払消費税等の増減額(は減少)	64	245
預り金の増減額(は減少)	66	79
商品券の増減額(は減少)	92	149
長期預り保証金の増減額(は減少)	42	95
その他	215	234
小計	13,645	13,177
訴訟和解金の支払額	-	193
法人税等の支払額	4,033	4,410
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,611	8,572
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	6,000	-
有形固定資産の取得による支出	5,030	5,765
無形固定資産の取得による支出	25	7
投資有価証券の取得による支出	310	-
投資有価証券の売却による収入	3	0
貸付けによる支出	3	-
貸付金の回収による収入	2	2
長期前払費用の取得による支出	8	29
差入保証金の回収による収入	174	147
差入保証金の差入による支出	120	214
利息及び配当金の受取額	69	41
投資活動によるキャッシュ・フロー	752	5,825

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	585	585
リース債務の返済による支出	124	162
利息の支払額	41	30
配当金の支払額	669	749
自己株式の取得による支出	0	0
少数株主への配当金の支払額	90	357
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,511	1,885
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	8,852	861
現金及び現金同等物の期首残高	12,336	21,188
現金及び現金同等物の期末残高	21,188	22,049

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

(株)ローソン沖縄

(2) 非連結子会社の数 1社

サンエー運輸(株)

サンエー運輸株式会社は、小規模であり、総資産、売上高等からみて、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性がないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社又は関連会社

該当なし

持分法を適用していない非連結子会社は小規模であり当期純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が無いため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

イ. 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

ロ. 関係会社株式

移動平均法による原価法

ハ. その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

イ. 商品及び製品

店舗在庫

主として売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

ただし、ドラッグストア(株)マツモトキヨシFC店舗)は、売価還元法による低価法、家電部門(株)エディオンFC店舗)は、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

ロ. 原材料及び貯蔵品

・原材料(流通センター在庫)

主として移動平均法による原価法

・貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産除く）

イ．建物（建物附属設備除く）

旧定率法

ロ．建物（建物附属設備除く）以外

平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定率法

平成19年4月1日以降に取得したもの

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～34年

機械装置及び運搬具 9年～15年

工具、器具及び備品 3年～12年

無形固定資産（リース資産除く）

イ．借地権（事業用定期借地権）

契約期間に基づく定額法

ロ．ソフトウェア（自社使用分）

社内における利用期間（5年）に基づく定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成21年2月28日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。

投資その他の資産

長期前払費用

均等償却

なお、主な償却期間は5年～30年であります。

(3) 重要な引当金の計上基準

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、翌連結会計年度の賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額（支給見込額基準）を計上しております。

商品券等回収損失引当金

一定期間経過後に収益に計上している未回収の商品券等について、将来回収された場合に発生する損失に備え、過去の回収実績に基づき損失発生見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(4) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、10年間の均等償却を行っております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限が到来する短期投資であります。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

【未適用の会計基準等】

- ・「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法について、これらを税効果を調整の上で連結貸借対照表の純資産の部で認識することとし、積立状況を示す額をそのまま負債又は資産として計上することとなるなどの改正がありました。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法について、退職給付見込額の期間帰属方法、使用する割引率の決定方法などが見直されるなどの改正がありました。

(2) 適用予定日

平成27年2月期の期末より適用予定であります。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法については、平成28年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「物品売却益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた121百万円は、「物品売却益」26百万円、「その他」95百万円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日) 及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日) を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
関係会社株式	21百万円	21百万円

2. 有形固定資産から直接控除した減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
	35,417百万円	37,536百万円

3. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。

(1) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
建物	5,807百万円	5,408百万円
土地	6,798	6,798
計	12,606	12,206

(2) 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
1年内返済予定の長期借入金	437百万円	397百万円
長期借入金	986	589
計	1,424	986

4. 当社は、運転資金の機動的な調達を行うため取引銀行と当座借越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
当座借越契約の総額	9,200百万円	9,200百万円
借入未実行残高	9,200	9,200

(連結損益計算書関係)

1. 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
建物及び構築物	0百万円	6百万円
機械装置及び運搬具	0	0
工具、器具及び備品	2	3
除却資産撤去費用	13	15
計	16	25

2. 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

場所	用途	種類	金額
沖縄県那覇市 他1	事業用	建物等	13百万円

当社グループはキャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産は個別物件を基本単位としてグルーピングしております。

営業から生じる損益が継続してマイナスとなっている店舗、土地の時価の下落が著しい店舗及び閉店の意思決定を行った店舗を対象とし、回収可能価額が帳簿価額を下回るものについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、回収可能価額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

場所	用途	種類	金額
沖縄県那覇市 他	事業用	建物等	64百万円

当社グループはキャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産は個別物件を基本単位としてグルーピングしております。

営業から生じる損益が継続してマイナスとなっている店舗、土地の時価の下落が著しい店舗及び閉店の意思決定を行った店舗を対象とし、回収可能価額が帳簿価額を下回るものについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、回収可能価額を零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成24年3月1日至平成25年2月28日)

1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	22百万円
組替調整額	-
税効果調整前	22
税効果額	7
その他有価証券評価差額金	14
その他の包括利益合計	14

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年3月1日至平成24年2月29日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	15,990,827	-	-	15,990,827
合計	15,990,827	-	-	15,990,827
自己株式				
普通株式(注)	8,839	30	-	8,869
合計	8,839	30	-	8,869

(注)自己株式の普通株式の増加30株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月25日 定時株主総会	普通株式	671	42	平成23年2月28日	平成23年5月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月24日 定時株主総会	普通株式	751	利益剰余金	47	平成24年2月29日	平成24年5月25日

当連結会計年度（自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	15,990,827	-	-	15,990,827
合計	15,990,827	-	-	15,990,827
自己株式				
普通株式（注）	8,869	66	-	8,935
合計	8,869	66	-	8,935

（注）自己株式の普通株式の増加66株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成24年 5月24日 定時株主総会	普通株式	751	47	平成24年 2月29日	平成24年 5月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年 5月23日 定時株主総会	普通株式	799	利益剰余金	50	平成25年 2月28日	平成25年 5月24日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日）	当連結会計年度 （自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日）
現金及び預金勘定	21,188百万円	22,049百万円
現金及び現金同等物	21,188百万円	22,049百万円

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、小売業におけるPOS設備等(工具、器具及び備品)及び機械装置及び運搬具であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、その内容については重要性が乏しいため、注記を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
1年内	1,963	1,960
1年超	34,972	32,874
合計	36,936	34,834

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金は主に自己資金で賄っております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しましては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、適宜信用状況を把握しております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

建設協力金、差入保証金については、主に店舗の賃貸借契約によるものであり、取引先企業等の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、未払金及び預り金は、すべてが2ヶ月以内の支払期日であります。

長期借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、平成25年2月現在、長期借入金の最終支払日は平成28年10月であり、リース債務の最終支払期日は平成29年7月であります。借入金契約及びリース契約は、契約時に支払額が確定しており、金利変動リスクはありません。

長期預り保証金は、テナント賃貸借契約等に係る敷金及び保証金であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）管理

営業債権については、公的機関、社会福祉団体及び営業取引先に限定しており、取引先相手ごとに期日及び残高を管理しております。また、適時に信用状況を把握し、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

建設協力金、差入保証金については、取引開始時に信用判定を行うとともに、契約更新時、その他適時に契約先の信用状況の把握に努めております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建ての営業債権債務はありません。

投資有価証券については、取得、売却は取締役会の承認により行われ、上場株式については定期的に時価等を把握しております。その他の株式についても定期的に財務状況を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

現金販売を主としており、日々の売上予算及び仕入先ごとの締め日、支払日等を基に、資金繰計画を作成し管理しております。また、運転資金の機動的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約を締結しており、当連結会計年度末の総額は92億円であります。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく時価のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定において変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することによって、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成24年2月29日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	21,188	21,188	-
(2) 売掛金	1,336	1,336	-
(3) 投資有価証券 (*1)	707	710	2
(4) 建設協力金 (*2)	1,572	1,520	51
(5) 差入保証金	2,318	2,044	274
資産計	27,123	26,800	322
(1) 買掛金	6,684	6,684	-
(2) リース債務 (*3)	414	413	1
(3) 未払金	3,188	3,188	-
(4) 未払法人税等	2,311	2,311	-
(5) 預り金	993	993	-
(6) 長期借入金 (*3)	1,817	1,819	1
(7) 長期預り保証金	719	685	34
負債計	16,129	16,095	34

(*1) 連結貸借対照表に記載している投資有価証券の内、時価のある上場株式及び債券についてのみ表示しております。

(*2) 流動資産のその他に含めている短期建設協力金については、建設協力金に含めて表示しております。

(*3) 1年内返済予定の長期借入金及び流動負債のリース債務については、それぞれ長期借入金、リース債務に含めて表示しております。

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	22,049	22,049	-
(2) 売掛金	1,269	1,269	-
(3) 投資有価証券 (*1)	730	737	7
(4) 建設協力金 (*2)	1,437	1,412	25
(5) 差入保証金	2,251	2,014	237
資産計	27,739	27,484	255
(1) 買掛金	6,729	6,729	-
(2) リース債務 (*3)	423	417	6
(3) 未払金	2,793	2,793	-
(4) 未払法人税等	1,876	1,876	-
(5) 預り金	1,073	1,073	-
(6) 長期借入金 (*3)	1,231	1,233	1
(7) 長期預り保証金	489	462	26
負債計	14,617	14,586	30

(*1)連結貸借対照表に記載している投資有価証券の内、時価のある上場株式及び債券についてのみ表示しております。

(*2)流動資産のその他に含めている短期建設協力金については、建設協力金に含めて表示しております。

(*3)1年内返済予定の長期借入金及び流動負債のリース債務については、それぞれ長期借入金、リース債務に含めて表示しております。

(注)1.金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 建設協力金、(5) 差入保証金

これらの時価について、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標により割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 買掛金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等、(5) 預り金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) リース債務、(6) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(7) 長期預り保証金

これらの時価について、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標により割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位: 百万円)

区分	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
非上場株式	135	134
関係会社株式	21	21
差入保証金	2,820	2,954
長期預り保証金	1,745	2,070

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3)投資有価証券」には含めておりません。

差入保証金のうち上記金額は、償還予定時期が明確でなく、将来キャッシュ・フローの発生時点を合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5)差入保証金」には含めておりません。

長期預り保証金のうち上記金額は、償還予定時期が明確でなく、将来キャッシュ・フローの発生時点を合理的に見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(7)長期預り保証金」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	21,188	-	-	-
売掛金	1,336	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	-	-	320	-
建設協力金	134	521	475	441
差入保証金	138	425	979	775
合計	22,797	946	1,774	1,216

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	22,049	-	-	-
売掛金	1,269	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	-	-	320	-
建設協力金	135	506	388	406
差入保証金	140	452	1,029	629
合計	23,594	959	1,738	1,036

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	585	534	321	214	160	-
リース債務	135	135	93	38	11	-
合計	721	670	415	253	171	-

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	534	321	214	160	-	-
リース債務	170	127	72	45	7	-
合計	705	449	287	206	7	-

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	300	302	2
	(3) その他	-	-	-
	小計	300	302	2
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	20	19	0
	(3) その他	-	-	-
	小計	20	19	0
合計		320	322	2

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	300	307	7
	(3) その他	-	-	-
	小計	300	307	7
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	20	19	0
	(3) その他	-	-	-
	小計	20	19	0
合計		320	327	7

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成24年2月29日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	387	251	136
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	387	251	136
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		387	251	136

当連結会計年度(平成25年2月28日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	410	251	158
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	410	251	158
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	0	0	0
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	0	0	0
合計		410	252	158

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	3	0	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	-	0	-

当連結会計年度(自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	0	-	0
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	0	-	0

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職一時金制度と確定拠出年金制度を併用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
(1) 退職給付債務(百万円)	1,486	1,784
(2) 年金資産(百万円)	-	-
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)(百万円)	1,486	1,784
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	83	154
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	-	-
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5)(百万円)	1,570	1,629
(7) 前払年金費用(百万円)	-	-
(8) 退職給付引当金(6) - (7)(百万円)	1,570	1,629

(注) 厚生年金基金の代行部分を含めて記載しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
退職給付費用(百万円)	237	224
(1) 勤務費用(百万円)	138	113
(2) 利息費用(百万円)	37	29
(3) 期待運用収益(減算)(百万円)	2	-
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	12	24
(5) 確定拠出年金制度への掛金支払額(百万円)	75	105

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
2.0%	1.4%

(3) 数理計算上の差異の処理年数

5年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
繰延税金資産		
資産調整勘定	627百万円	384百万円
減価償却費損金不算入限度超過額	918	1,024
固定資産減損損失	272	283
賞与引当金否認	359	338
未払費用否認	262	247
未払事業税等否認	191	153
退職給付引当金損金算入限度超過額	549	569
役員退職慰労引当金否認	171	171
資産除去債務	118	120
その他	124	160
繰延税金資産小計	3,596	3,453
評価性引当額	594	356
繰延税金資産合計	3,002	3,097
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	179	175
その他有価証券評価差額金	47	49
その他	58	64
繰延税金負債合計	285	289
繰延税金資産の純額	2,717	2,808

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,126百万円	1,109百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,590百万円	1,698百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当連結会計年度 (平成25年2月28日)
法定実効税率	40.0%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
(調整)		
受取配当金等永久差異	0.4	
住民税均等割	0.5	
のれん償却	0.6	
評価性引当額の増減	5.5	
税制改正税率変更による差異	2.1	
その他	0.4	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.7	

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の合計額に占める小売部門の割合がいずれも90%を超えているため、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外の有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高、連結損益計算書の売上高の10%以上でないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日）

当連結会計年度において、固定資産に係る重要な減損損失はありません。

当連結会計年度（自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日）

当連結会計年度において、固定資産に係る重要な減損損失はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、当連結会計年度ののれんの償却額及び未償却残高は163百万円、1,270百万円となっております。

当連結会計年度（自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、当連結会計年度ののれんの償却額及び未償却残高は163百万円、1,106百万円となっております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	折田 譲治	-	-	当社代表取締役会長	(被所有) 直接12.6	-	日本流通産業株からの商品仕入	5,629	買掛金	574
				日本流通産業株代表取締役副社長			販売奨励金の受入	24	-	-
							利息の受取	0	差入保証金	50

(注) 1. 取引条件および取引条件の決定方針等

取引については、他の取引先と同一の条件によっております。

2. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度（自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	折田 譲治	-	-	当社代表取締役会長	(被所有) 直接12.6	-	日本流通産業株からの商品仕入	5,642	買掛金	509
				日本流通産業株代表取締役副社長			販売奨励金の受入	34	-	-
							利息の受取	0	差入保証金	50

(注) 1. 取引条件および取引条件の決定方針等

取引については、他の取引先と同一の条件によっております。

2. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
1株当たり純資産額 4,201.76円	1株当たり純資産額 4,505.87円
1株当たり当期純利益金額 392.99円	1株当たり当期純利益金額 350.21円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)	当連結会計年度 (自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)
当期純利益(百万円)	6,280	5,597
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	6,280	5,597
期中平均株式数(千株)	15,981	15,981

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	585	534	1.604	-
1年以内に返済予定のリース債務	135	170	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	1,231	696	1.831	平成26年～ 平成28年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	278	253	-	平成26年～ 平成29年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,232	1,655	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	321	214	160	-
リース債務	127	72	45	7

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	33,974	70,946	104,563	140,925
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	2,506	5,359	7,376	9,871
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,450	3,088	4,202	5,597
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	90.75	193.25	262.95	350.21

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	90.75	102.50	69.70	87.26

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,856	20,694
売掛金	1,336	1,269
商品及び製品	8,786	9,235
原材料及び貯蔵品	184	195
前払費用	255	256
繰延税金資産	850	836
その他	420	478
流動資産合計	31,690	32,966
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1, 2 15,964	1, 2 19,985
構築物（純額）	1 574	1 621
機械及び装置（純額）	1 241	1 509
車両運搬具（純額）	1 1	1 2
工具、器具及び備品（純額）	1 1,429	1 1,557
土地	2 25,470	2 25,470
リース資産（純額）	1 379	1 392
建設仮勘定	3,144	1,194
有形固定資産合計	47,207	49,734
無形固定資産		
借地権	233	222
ソフトウェア	44	36
その他	46	46
無形固定資産合計	324	304
投資その他の資産		
投資有価証券	843	865
関係会社株式	3,091	3,091
出資金	0	0
長期前払費用	263	258
繰延税金資産	1,590	1,694
差入保証金	3,327	3,341
建設協力金	1,419	1,285
投資その他の資産合計	10,535	10,536
固定資産合計	58,067	60,575
資産合計	89,758	93,542

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,684	6,729
1年内返済予定の長期借入金	2 585	2 534
リース債務	135	170
未払金	3,164	2,772
未払費用	881	927
未払法人税等	2,306	1,742
未払消費税等	234	-
前受金	191	273
預り金	973	1,055
商品券	921	1,071
賞与引当金	871	886
商品券等回収損失引当金	24	24
流動負債合計	16,976	16,187
固定負債		
長期借入金	2 1,231	2 696
リース債務	278	253
退職給付引当金	1,570	1,629
長期未払金	491	491
長期預り保証金	2,163	2,261
資産除去債務	312	316
長期前受収益	16	-
固定負債合計	6,064	5,648
負債合計	23,041	21,836
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,723	3,723
資本剰余金		
資本準備金	3,686	3,686
資本剰余金合計	3,686	3,686
利益剰余金		
利益準備金	344	344
その他利益剰余金		
圧縮積立金	307	300
別途積立金	52,530	57,830
繰越利益剰余金	6,061	5,743
利益剰余金合計	59,243	64,218
自己株式	25	25
株主資本合計	66,628	71,602
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	88	102
評価・換算差額等合計	88	102
純資産合計	66,716	71,705
負債純資産合計	89,758	93,542

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
売上高	138,171	140,581
売上原価		
商品期首たな卸高	8,498	8,939
当期商品仕入高	96,630	98,330
合計	105,129	107,270
商品期末たな卸高	8,939	9,389
商品売上原価	96,190	97,880
売上総利益	41,980	42,700
営業収入		
不動産賃貸収入	3,095	3,327
その他	1,079	1,071
営業収入合計	4,174	4,398
営業総利益	46,154	47,099
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	932	930
役員報酬	176	188
給料及び手当	3,199	3,303
賞与	1,695	1,237
賞与引当金繰入額	871	886
退職給付費用	226	211
役員退職慰労引当金繰入額	9	-
雑給	9,417	10,052
福利厚生費	1,919	2,004
地代家賃	3,170	3,218
減価償却費	2,491	2,899
消耗品費	906	1,059
水道光熱費	3,686	3,839
E D P費	406	432
租税公課	664	808
その他	6,497	6,897
販売費及び一般管理費合計	36,272	37,968
営業利益	9,882	9,130

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
営業外収益		
受取利息	57	45
受取配当金	105	384
受取家賃	34	25
仕入割引	6	5
協賛金収入	21	17
債務勘定整理益	55	51
物品売却益	26	39
その他	63	107
営業外収益合計	370	676
営業外費用		
支払利息	41	28
商品券等回収損失引当金繰入額	13	13
貯蔵品廃棄損	12	-
その他	10	14
営業外費用合計	78	55
経常利益	10,173	9,751
特別利益		
退職給付制度改定益	432	-
特別利益合計	432	-
特別損失		
固定資産除却損	1 15	1 19
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	183	-
減損損失	2 13	2 64
訴訟和解金	-	193
特別損失合計	212	278
税引前当期純利益	10,394	9,473
法人税、住民税及び事業税	4,209	3,845
法人税等調整額	180	97
法人税等合計	4,390	3,747
当期純利益	6,004	5,725

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,723	3,723
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,723	3,723
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	3,686	3,686
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,686	3,686
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	344	344
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	344	344
その他利益剰余金		
圧縮積立金		
当期首残高	315	307
当期変動額		
圧縮積立金の取崩	8	7
当期変動額合計	8	7
当期末残高	307	300
別途積立金		
当期首残高	47,730	52,530
当期変動額		
別途積立金の積立	4,800	5,300
当期変動額合計	4,800	5,300
当期末残高	52,530	57,830
繰越利益剰余金		
当期首残高	5,520	6,061
当期変動額		
別途積立金の積立	4,800	5,300
圧縮積立金の取崩	8	7
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,004	5,725
当期変動額合計	540	318
当期末残高	6,061	5,743
利益剰余金合計		
当期首残高	53,910	59,243
当期変動額		
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,004	5,725
当期変動額合計	5,332	4,974
当期末残高	59,243	64,218

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月28日)
自己株式		
当期首残高	25	25
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	25	25
株主資本合計		
当期首残高	61,295	66,628
当期変動額		
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,004	5,725
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	5,332	4,974
当期末残高	66,628	71,602
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	106	88
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	14
当期変動額合計	17	14
当期末残高	88	102
純資産合計		
当期首残高	61,401	66,716
当期変動額		
剰余金の配当	671	751
当期純利益	6,004	5,725
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	14
当期変動額合計	5,314	4,988
当期末残高	66,716	71,705

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

- (1) 満期保有目的の債券
償却原価法（定額法）
- (2) 子会社株式
移動平均法による原価法
- (3) その他有価証券
 - イ．時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - ロ．時価のないもの
移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- (1) 商品及び製品
 - イ．店舗在庫
売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
ただし、ドラッグストア（㈱マツモトキヨシFC店舗）は、売価還元法による低価法、家電部門（㈱エディオンFC店舗）は、移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
- (2) 原材料及び貯蔵品
 - イ．原材料（流通センター在庫）
主として移動平均法による原価法
 - ロ．貯蔵品
最終仕入原価法

3. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産（リース資産除く）
 - イ．建物（建物附属設備除く）
旧定率法
 - ロ．建物（建物附属設備除く）以外
平成19年3月31日以前に取得したもの
旧定率法
平成19年4月1日以降に取得したもの
定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～34年
構築物	10年～30年
機械及び装置	9年～15年
工具、器具及び備品	3年～12年

(2) 無形固定資産（リース資産除く）

- イ．借地権（事業用定期借地権）
契約期間に基づく定額法
- ロ．ソフトウェア（自社使用分）
社内における利用期間（5年）に基づく定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成21年2月28日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き適用しております。

(4) 投資その他の資産

長期前払費用

均等償却

なお、主な償却期間は5年～30年であります。

4. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、翌事業年度の賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額（支給見込額基準）を計上しております。

(2) 商品券等回収損失引当金

一定期間経過後に収益に計上している未回収の商品券等について、将来回収された場合に発生する損失に備え、過去の回収実績に基づき損失発生見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生した翌事業年度から費用処理することとしております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1.有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
	34,849百万円	36,745百万円

2.担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。

(1)担保に供している資産

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
建物	5,807百万円	5,408百万円
土地	6,798	6,798
計	12,606	12,206

(2)上記に対応する債務

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
1年内返済予定の長期借入金	437百万円	397百万円
長期借入金	986	589
計	1,424	986

3.当社は、運転資金の機動的な調達を行うため取引銀行と当座借越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
当座借越契約の総額	9,200百万円	9,200百万円
借入未実行残高	9,200	9,200

(損益計算書関係)

1. 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月 29日)	当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月 28日)
建物	- 百万円	0百万円
構築物	0	-
機械及び装置	0	0
工具、器具及び備品	2	3
除却資産撤去費用	13	15
計	15	19

2. 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度 (自 平成23年 3月 1日 至 平成24年 2月 29日)

場所	用途	種類	金額
沖縄県那覇市 他	事業用	建物等	13百万円

当社はキャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産は個別物件を基本単位としてグルーピングしております。

営業から生じる損益が継続してマイナスとなっている店舗、土地の時価の下落が著しい店舗及び閉店の意思決定を行った店舗を対象とし、回収可能価額が帳簿価額を下回るものについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、回収可能価額を零として評価しております。

当事業年度 (自 平成24年 3月 1日 至 平成25年 2月 28日)

場所	用途	種類	金額
沖縄県那覇市 他	事業用	建物等	64百万円

当社はキャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産は個別物件を基本単位としてグルーピングしております。

営業から生じる損益が継続してマイナスとなっている店舗、土地の時価の下落が著しい店舗及び閉店の意思決定を行った店舗を対象とし、回収可能価額が帳簿価額を下回るものについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、回収可能価額を零として評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年3月1日 至平成24年2月29日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	8,839	30	-	8,869
合計	8,839	30	-	8,869

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加30株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度(自平成24年3月1日 至平成25年2月28日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式(注)	8,869	66	-	8,935
合計	8,869	66	-	8,935

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加66株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

小売業におけるPOS設備等(工具、器具及び備品)及び車両運搬具であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、その内容については重要性が乏しいため、注記を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 百万円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
1年内	1,866	1,863
1年超	34,084	32,082
合計	35,951	33,945

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,091百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,091百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
繰延税金資産		
減価償却費損金算入限度超過額	911百万円	1,014百万円
固定資産減損損失	272	283
賞与引当金否認	348	327
未払費用否認	263	245
未払事業税等否認	191	142
退職給付引当金損金算入限度超過額	549	569
役員退職慰労引当金否認	169	169
資産除去債務	109	110
その他	121	160
繰延税金資産小計	2,936	3,023
評価性引当額	209	209
繰延税金資産合計	2,726	2,813
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	179	175
その他有価証券評価差額金	47	49
その他	58	58
繰延税金負債合計	285	282
繰延税金資産の純額	2,441	2,530

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当事業年度 (平成25年2月28日)
法定実効税率	40.0%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
(調整)		
住民税均等割	0.5	
税制改正税率変更による差異調整	2.3	
その他	0.5	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	42.2	

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)		当事業年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)	
1株当たり純資産額	4,174.50円	1株当たり純資産額	4,486.67円
1株当たり当期純利益金額	375.68円	1株当たり当期純利益金額	358.26円
(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日)	当事業年度 (自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日)
当期純利益(百万円)	6,004	5,725
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	6,004	5,725
期中平均株式数(千株)	15,981	15,981

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他 有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		株式会社沖縄銀行	51,814	195
日本流通産業株式会社	20,000	107		
沖縄電力株式会社	30,618	85		
株式会社プロルート丸光	525,000	76		
株式会社琉球銀行	40,207	49		
大同火災海上保険株式会社	3,000	11		
株式会社國場組	20,000	10		
株式会社人材派遣センターオキナワ	120	6		
沖縄セルラー電話株式会社	2,000	4		
日本アジアグループ株式会社	141	0		
計		692,900	545	

【債券】

投資有価証券	満期保有目的 の債券	銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
		(株)琉球銀行 第2回期限前償還条項付無担保社債 (劣後特約付)	300	300
野村ホールディングス(株) 第1回期限前償還条項付無担保社債 (劣後特約付)	20	20		
計		320	320	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 または償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	39,099	5,974	654 (545)	44,419	24,434	1,891	19,985
構築物	2,345	168	9 (9)	2,503	1,881	120	621
機械及び装置	1,735	369	16 (0)	2,088	1,578	100	509
車両運搬具	19	1	0	20	18	0	2
工具、器具及び備品	9,622	770	389 (43)	10,003	8,446	637	1,557
土地	25,470	-	-	25,470	-	-	25,470
リース資産	619	163	4 (4)	778	385	148	392
建設仮勘定	3,144	4,368	6,317	1,194	-	-	1,194
有形固定資産計	82,056	11,814	7,392 (603)	86,479	36,745	2,899	49,734
無形固定資産							
借地権	358	-	-	358	136	10	222
ソフトウェア	78	7	-	86	50	16	36
その他	46	-	-	46	-	-	46
無形固定資産計	482	7	-	490	186	27	304
長期前払費用	398	29	5	422	147	30	275

(注) 1. 「当期減少額」欄の()は内数で、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加額の主な内容は次のとおりであります。

建物	宜野湾コンベンションシティ	5,687百万円
構築物	宜野湾コンベンションシティ	143百万円
工具器具備品	宜野湾コンベンションシティ	88百万円

3. 長期前払費用の差引当期末残高のうち16百万円は、流動資産の部に掲記しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	871	886	871	-	886
商品券等回収損失引当金	24	13	13	-	24

(2)【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	1,766
普通預金	5,520
定期預金	13,400
その他	7
合計	20,694

売掛金

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
株式会社エディオン	391
楽天エディ株式会社	257
株式会社三井住友カード	172
株式会社OCS	136
株式会社おきぎんジェーシービー	129
その他	182
合計	1,269

(ロ)売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 365
1,336	29,196	29,262	1,269	95.8	16.3

商品及び製品

品名	金額(百万円)
住居関連用品	5,930
衣料品	1,757
食料品	1,512
その他	35
合計	9,235

原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	
食料品(食品加工センター)	154
小計	154
貯蔵品	
制服	31
その他	9
小計	40
合計	195

差入保証金

区分	金額(百万円)
店舗賃借	3,079
営業保証金	229
その他	32
合計	3,341

買掛金

相手先	金額(百万円)
株式会社エディオン	524
日本流通産業株式会社	509
株式会社湧川商会	352
株式会社マツモトキヨシ	208
株式会社タカダ	208
その他	4,925
合計	6,729

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日 2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	当社が別途定める1単元当たりの売買委託手数料相当額を買取った単元未満株式数で按分した額
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	<p>1. 株主優待制度の内容 2月末日現在の株主に対し、年1回、沖縄県内在住の株主様へは当社商品券を、沖縄県外在住の株主様へは三井住友カードVJ Aギフトカードを下記の基準により贈呈いたします。</p> <p>2. 贈呈基準(保有株式数)</p> <p>100株から499株 2,000円分(1,000円券 2枚) 500株から999株 5,000円分(1,000円券 5枚) 1,000株以上 10,000円分(1,000円券 10枚)</p> <p>3. ご利用方法 当社商品券は、サンエー全店(テナント含む)にてご利用頂けます。 三井住友カードVJ Aギフトカードは全国の三井住友VISAカード加盟店にてご利用頂けます。</p>

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利並びに募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第42期）（自平成23年3月1日 至平成24年2月29日）平成24年5月25日沖縄総合事務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年5月25日沖縄総合事務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第43期第1四半期）（自平成24年3月1日 至平成24年5月31日）平成24年7月13日沖縄総合事務局長に提出。

（第43期第2四半期）（自平成24年6月1日 至平成24年8月31日）平成24年10月12日沖縄総合事務局長に提出。

（第43期第3四半期）（自平成24年9月1日 至平成24年11月30日）平成25年1月11日沖縄総合事務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成24年5月28日沖縄総合事務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

(5) 訂正報告書

有価証券報告書の訂正報告書

平成24年7月13日沖縄総合事務局長に提出。

事業年度（第42期）（自平成23年3月1日 至平成24年2月29日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年5月24日

株式会社サンエー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	篠原 孝広 印
--------------------	-------	---------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	細野 和寿 印
--------------------	-------	---------

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンエーの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社サンエー及び連結子会社の平成25年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社サンエーの平成25年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社サンエーが平成25年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年5月24日

株式会社サンエー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 篠原 孝広 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 細野 和寿 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンエーの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの第43期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社サンエーの平成25年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。